

2017年度 関西大学 商学部 SF 入学試験 問題用紙 (小論文)

平成 28 年 10 月 16 日実施

次の文章を読んで解答用紙の設問に答えなさい。

そもそも“チーム”とは何か。似たようなコトバに「グループ」があるが、それとどちらがうのか。「野球チーム」「サッカーチーム」とは言うが「野球グループ」「サッカーグループ」とはあまり言わないことから、“チーム”というのは単なる集団を超えた、「何らかの目的を実現するために結成されたもの」というニュアンスがあることがわかる。また「チームワークがよい」というときには、何らかの目的に対して、 $1 + 1 = 2$ 以上に機能する(ワークする)というニュアンスがある。こうしたことからチームは“目的達成を前提としている”と言えるだろう。

それに対してグループとは、たとえば「仲良しグループ」というように、必ずしも目的達成を念頭においていない場合も多い。(ア) そうした意味で、「グループ/チーム」という対比は、より大規模なものとして「集団/組織」という言葉に置き換えることもできるだろう。 集団とは単なる人の集まりであるのに対して、組織とは「何らかの目的を達成するための有機体」なのである。

つまり、チームや組織とは目的達成のために作られるものである以上、何をするにも、その目的が決定的に重要になるのだ。したがって、まずリーダーがやるべきことは、チーム作りのすべての判断基準になる「目的」を明確にすることである。どういうチームメンバーが必要で、どのような戦略が有効で、どういうリーダーシップが求められるのか、すべてこの「目的」を抜きに考えることはできない。

チームとは目的を達成するために作られるものであり、すべての価値判断は目的(関心)に応じてなされることから、「目的」を抜きにどのようなチーム編成、規模、戦略、戦術がよいかを議論することは原理上不可能だ。したがって、チームの活動の方法も成否もすべてその目的に照らして判断される。ゆえに、まずはすべての判断指針となるチームの目的を明確にしなければならない。

(イ) この「目的の明確化」は「チーム(組織)の理念」にもつながってくる。それは、目的の抽象度を上げて、その本質を象徴的に言い当てたものであり、そのチーム(組織)の目指すべき方向を端的に示したものと言えるだろう。

(出典：西條剛央『チームの力』ちくま新書、2015年、44-45頁、48-49頁より引用。)

以上

